



“ 熱中症と
空梅雨 (からつゆ) ”



園長 高杉 洋史

玄海ゆりの樹幼稚園の園舎は建ててから十四年目を迎えます。既にその頃から夏の厳しさは増しており、工事で働く皆さんも水分補給や塩飴はもちろん、屋上では大型扇風機を使つての工事でしたが、何人か熱中症にかかり救急車で運ばれたことを覚えていきます。

十数年前より気温の上昇も大きく、熱中症対策マニュアルも質を上げ、外遊びの間も短くせざるをえません。この時期のバツタやカマキリは春先に比べずいぶん育ち、子どもたちの格好の遊び相手なのですが、気温三十五度には勝てません。紫外線のことにも心配です。

もう一つの心配事は水不足です。ゆりの樹ファームのサツマイモの苗は例年6月に植えるのですが、春先の気温が上がらなかつたため苗の成長が遅れたようで、手に入ったのが6月下旬でした。ところが空梅雨のため畑はカラカラ。水をかけたのですが自然の雨にはかきまかせません。一生懸命水をやっても焼け石に水程度です。いつもの年に比べ成長が遅く、青々としたサツマイモ畑になるにはもう少し時間がかかりそうです。大雨で被害が出るのも困りものですが雨が降らないのも心配です。特に玄海ゆりの樹幼稚園の子ども達は大きな芋をたくさん収穫する日が来るのを期待しているので農業の師匠、山路さんが井戸水スプリンクラーを作ってくれました。作戦が上手くいきますように。

一方、玄関に置いてあるプランターのペチュニアは元気です。梅雨を越すのが難しい花ですが、摂氏三十五度もどこ吹く風、色とりどりに目を楽しませてくれていきます。空梅雨のおかげで園児と植えたミニトマト、ピーマン、ナスに水をやるのも毎日の習慣となり、忘れずに水をやるのも毎日の実の付きがいつもよりいいように感じます。一つの事象も見方次第で表にも裏にもなります。暑さにめげず水やりに励みます。プランターの花はたった一日水やりを忘れると枯れる時もあります。継続は力なので、暑い夏といえ、いつのまにか、カニのケースの水が蒸発して、かわいそうに標本にしてしまった失敗があります。園児達と「カニさんごめんさい」を一緒にしたことでした。今年はそのことがないようになり、見守っていきます。

最後に自分の宣伝です。玄海ゆりの樹幼稚園のホームページに「園長先生のページ」というところがあり、その中に「園長の独り言」を始めました。ほとんどが生物のこと、特に虫さんとお花のことが多いです。玄海ゆりの樹幼稚園周囲の環境のことを知って頂けると嬉しいです。

吉塚ゆりの樹幼稚園の年中組さんは冒険保育「玄海ゆりの樹アドベンチャーツアー」を楽しみにして下さいます。

